

## 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名： 城里町

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
茨城県 城里町	平成29年度	茨城県内ではイノシシ肉を食肉としてほとんど利用していないことから、獣害対策としてのイノシシ駆除・捕獲、肉および皮の利活用に取り組み、地域活性化を図る。

### 1. 第三者の意見及び、目標達成に向けた指導・助言等

・令和2年5月に事業評価を実施

#### 【第三者の意見等】

町内施設を利用して地元食材やイノシシ革製品のPR活動を実施するほか、イベント等への出店でのPR活動を実施している。また、食肉処理施設の検討が進み、具体化に向けた計画ができているなど、目標達成に向けた取り組みが適切に行われている。

なお、事業成果として雇用目標は達成できなかったものの、今後、食肉処理施設の設置が進められる予定であることから、将来的には雇用が期待できる。令和元年度は有害捕獲確認のため会計年度職員1名採用し、令和2年度も会計年度職員1名採用予定、令和3年度には会計年度職員2名を採用予定で2名体制で確認業務を行う。サングリエにおいては商品開発や出展等を行っていることから、おおむね目標を達成していると評価できる。

### 2. 低調と評価された内容・要因

#### 【低調と評価された内容】(令和元年度)

雇用者数 …目標値:1人 実績値:0人(達成率:0%)

#### 【要因】

CSF(豚コレラ)及び野生イノシシについては豚熱感染が蔓延し始め、新型コロナウイルス等の影響が懸念されたことにより、事業期間内に食肉処理施設の設置に至らず、雇用目標を達成できなかったことが低調評価の要因として捉えている。

### 3. 目標達成に向けた方策

- 目標達成のためには、食肉処理施設の設置が不可欠であることから、設置実現に向け、下記の対策を推進する。
1. 鳥獣被害対策等によるイノシシ駆除を重点的に行うとともに、茨城県と一体となってCSF(豚コレラ) 対策としてのワクチン散布等を行う。これにより、城里町内でのCSF(豚コレラ)発生を防ぐ。
  2. 有害鳥獣の捕獲確認等のために令和3年度には会計年度職員2名を採用する。また、地域おこし協力隊の卒業生「サングリエ」は城里町内外で活動を行い、捕獲されるイノシシ皮の利用について、関係各位の理解を広める。
  3. 茨城県と食肉処理施設の設置に向け、CSF(豚コレラ)影響等の客観的評価を得られるよう協議を行う。(城里町では捕獲したイノシシ1頭からワクチン抗体が検出される)また、茨城県や関係部局が連携し、イノシシ肉の活用に取り組む(県主催の施設検討会、勉強会への参加)
  4. 上記をもとに、令和3年度には会計年度職員2名体制でワクチン散布及び有害捕獲と確認作業等の強化を図ることとする。

### 4. 改善状況

- 令和2年度目標値とその達成状況  
雇用者数 …目標値:1人 実績値:2人(達成率:200%)
- ・CSF(R3年2月に近隣市町村の常陸太田市で野生イノシシ豚熱感染の陽性反応が確認され、現在県内で40例目の陽性反応が発生し、県内全域に広がっている)、鳥インフルエンザ(R3年2月に町内養鶏場発生)、などの家畜伝染病による自然環境状況悪化と風評被害及びコロナ感染防止対策での外出自粛による外食産業の低迷がみられ、食肉処理施設の設置には至らないものの、令和元年に会計年度職員1名採用、令和2年度にも1名採用、令和3年度は会計年度職員を2名採用し、2名体制で有害捕獲等業務の強化を行う体制となり、雇用の目標が達成された。
  - ・捕獲数向上のため、令和2年度には町からの貸し出し用箱罾を61基から16基増加し77基の箱罾で捕獲の推進対策を行い、捕獲頭数の増加を図り令和元年度比44%の成果をあげた。(平成29年度249頭、平成30年度271頭、令和元年度642頭)